



接合金物用

日立丸釘打機

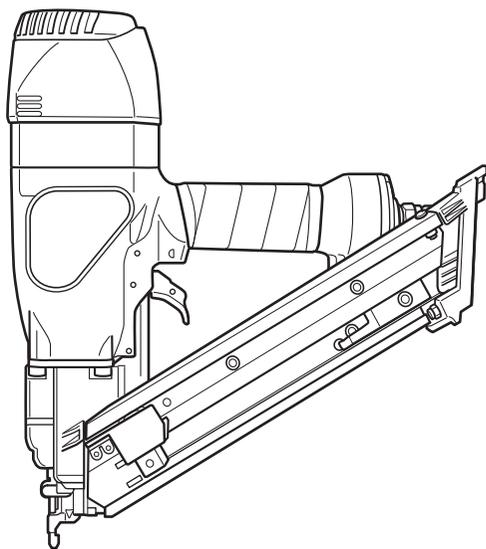
NR 65A(S)〔ショートマガジン〕

取扱説明書

このたびは日立丸釘打機をお買い上げいただき、ありがとうございました。

ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。

お読みになった後は、いつでも見られる所に大切に保管してご利用ください。



目 次

ページ

釘打機の安全上のご注意	2
丸釘打機の使用上のご注意	8
各部の名称	9
仕様	9
釘の選び方	10
標準付属品	10
用途	10
作業前の準備	11
ご使用前に	12
使い方	15
保守・点検	17
エアコンプレッサと作業の速さ	20
使用潤滑油	20
ご修理のときは	21
全国営業拠点	裏表紙

警告、 注意、 注 の意味について

ご使用上の注意事項は「 警告」と「 注意」に区分していますが、それぞれ次の意味を表します。また、「 注」の意味も説明します。

 **警告** : 誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

 **注意** : 誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

なお、「 注意」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので、必ず守ってください。

 **注** : 製品の据付け、操作、メンテナンスに関する重要なご注意。

釘打機の安全上のご注意

- けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- ご使用前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上、指示に従って正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

警告

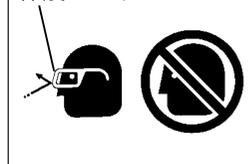
作業前

- ① 保護メガネを使用してください。
 - 作業中は、保護メガネを使用してください。
 - まわりの人にも保護メガネをかけさせてください。釘を連結している連結バンドの破片や打ち損じの釘が目にあたると、けがの原因になります。
- ② エアコンプレッサ以外の動力源は使用しないでください。

釘打機は、エアコンプレッサによる圧縮空気を動力源とする工具です。圧縮空気以外の高圧ガス（酸素、アセチレン、プロパンなど）を使用すると、爆発の恐れがあり、事故の原因になります。
- ③ 機体の排気音や排気空気から耳を保護するため、防音保護具を着用してください。
- ④ 作業環境に応じてヘルメット、安全靴などの防具を着用してください。
- ⑤ きちんとした服装で作業してください。
- ⑥ エアホースを接続する前に、次の点検をしてください。
 - ねじ類がゆるんでいないこと。
 - 損傷したり、はずれている部品がないこと。
 - さび付きなどで、正常に動作しない部品がないこと。
 - プッシュレバーがスムーズに動くこと。異常のあるまま使用すると、けがや機体の破損の原因になるので、異常のあるときは、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。

①

保護メガネ

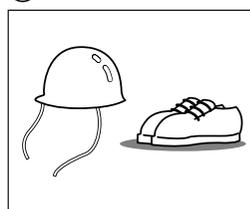


②

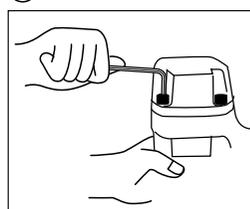
エアコンプレッサ



④



⑥

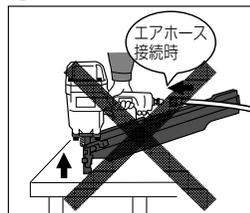


⚠ 警 告

⑦ エアホースを接続するときは、次のことに注意してください。

- 引金に手を触れない。
- プッシュレバーの先に触れたり、押し上げた状態にしない。
- 射出口を人体に向けない。
誤って釘が発射した場合、けがの原因になります。

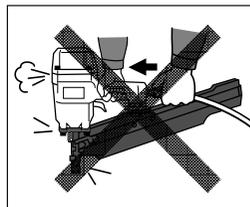
⑦



⑧ 釘を装てんする前に、エアホースを接続し、次の点検をしてください。

- エアホースを接続ただけで、機体内部のピストンなどの作動音がしないこと。
- 空気漏れや異常音がしないこと。
異常のあるまま使用すると、事故やけがの原因になるので、異常のあるときは、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。

⑧



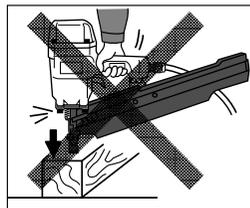
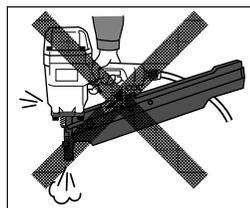
⑨ 使用前に安全装置の点検をしてください。

この機体は、プッシュレバーと引金の両方を作動させないと、釘が発射されない構造になっています。

釘を装てんする前に、エアホースを接続し、次の点検をしてください。

- 引金を引いただけで、機体内部のピストンなどの作動音がしないこと。
- プッシュレバーを打ち込み対象物に押し当てただけで、ピストンなどの作動音がしないこと。
異常のあるまま使用すると、けがの原因になるので、異常のあるときは、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。

⑨



⑩ 用途にあった作業に使用してください。

- この機体は、木材または類似の材料への釘打ち作業を目的とした工具です。
- 指定された用途以外には使用しないでください。

⑪ 指定の釘を使用してください。

指定された釘以外のものを使用すると、けがや機体の故障の原因になるので使用しないでください。

⑪



⚠ 警 告

- ⑫ 子供を近づけないでください。
- 作業者以外、釘打機やエアホースに触れさせないでください。けがの原因になります。
 - 作業者以外、作業場へ近づけないでください。けがの原因になります。
- ⑬ 作業場は、いつもきれいに保ってください。
- ちらかった場所や作業台は、事故の原因になります。
 - 作業場は十分に明るくしてください。暗い場所での作業は、事故の原因になります。
- ⑭ 作業する箇所に、内部配線やガス管など埋設物がないことを、作業前に十分確かめてください。

作業中

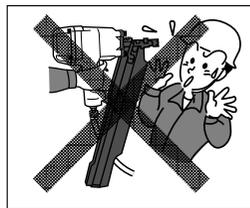
- ① 指定の空気圧力で使用してください。
- この機体の使用空気圧力範囲は0.49～0.78 MPa {5～8 kgf/cm²}です。この範囲内で使用してください。0.78 MPa {8 kgf/cm²}を超えた空気圧力で使用すると、機体の破裂や損傷の恐れがあり、けがの原因になります。
- ② 人体に射出口を向けないでください。
- 人体に射出口を向けて、誤って発射した場合、思いがけないけがにつながります。
- ③ 射出口付近に顔や手、足などを近づけて作業しないでください。
- 誤って釘が発射したり、はね返って飛んだときなど、けがの原因になります。
- ④ 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。
- 可燃性の液体やガス（シンナー、ガソリン、塗料、ガス類など）のある所で、釘打機やエアコンプレッサを使用しないでください。釘を打ち込むときの火花による引火や、空気といっしょに吸引圧縮され、爆発や火災の恐れがあり、事故の原因になります。

①

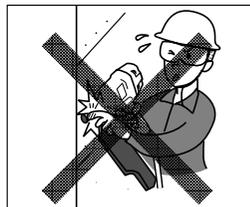
0.49～0.78 MPa
{5～8 kgf/cm²}



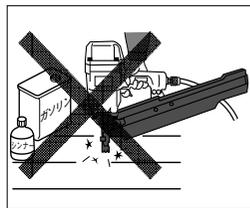
②



③



④

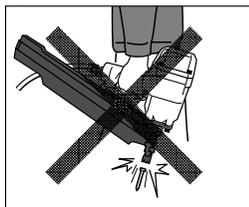


警告

⑤ 釘を打ち込むとき以外は、引金に指をかけないでください。

- 引金に指をかけて、持ち運びしたり、手渡しなどをしないでください。
- 釘を装てんするときや調整などをするとき、引金に指をかけないでください。
誤って釘が発射する恐れがあり、けがの原因になります。

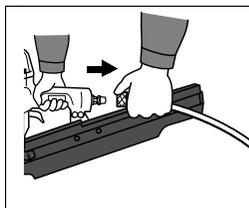
⑤



⑥ 次の場合は、エアホースをはずし、圧縮空気を抜いてください。

- 使用しない場合や作業中断時、使用後。
- 点検・修理・調整、釘づまりの直しなどの場合。
- 釘を装てんする場合。
- 釘打機を移動する際や手渡しする場合。
誤って釘が発射する恐れがあり、けがの原因になります。

⑥



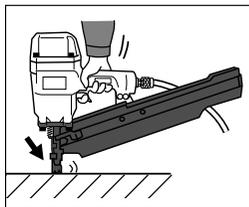
⑦ 引金に指をかけた状態でエアホースをはずさないでください。

引金に指をかけた状態でエアホースをはずすと、次にエアホースをつないだとき、誤って釘が発射する恐れがあり、けがの原因になります。

⑧ 釘を打つときは、射出口を確実に対象物に当ててください。

- 一度打った釘の上に、再度釘を打つことはしないでください。
釘がはね返ったり、機体が反発することもあり、けがの原因になります。

⑧



⑨ 作業中はまわりの人に注意してください。

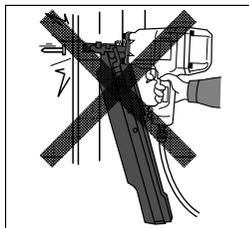
釘を連結している連結バンドの破片や打ち損じた釘が当たる恐れがあり、けがの原因になります。

- 高所作業のときは、下に人がいないことをよく確かめてください。
機体や材料を落としたときなど、事故の原因になります。

⑨

⑩ 薄い板や木材の端に釘を打たないでください。

薄い板に打つと釘が突き抜けたり、木材の角に打つと釘がそれたりして、けがの原因になります。



⚠ 警 告

⑪ 機体の反発に注意してください。

- 硬い所に打った場合、機体がはね返ることがあるため、顔を近づけないでください。

⑫ 壁の両側から同時に釘打ち作業をしないでください。

打った釘が突き抜けたり、壁ぎわの釘がそれたりして、けがの原因になります。

⑬ 無理な姿勢で作業をしないでください。

- 常に足元をしっかりとさせ、バランスを保つようにしてください。

転倒して、けがの原因になります。

- 高所作業のときは、釘打ち作業中に落ちることのないように十分足場の安全性を確認してください。

けがの原因になります。

⑭ 屋外での作業は、次のことに注意してください。

- 高所作業の場合、エアホースは作業場所の近くに固定してください。

不意にエアホースを引っ掛けたりした場合、けがの原因になります。

- 屋根などの斜面で釘を打つときは、下から上に向かって前進しながら作業してください。

後退しながら作業すると、足を踏みはずす恐れがあり、けがの原因になります。

- 床などの水平面で釘を打つときは、前進しながら作業してください。

後退しながら作業すると、足をとられ、けがの原因になります。

- 壁などの垂直面に釘を打つときは、上から下へ作業してください。

⑮ 油断しないで十分注意して作業を行なってください。

- 釘打機を使用する場合は、取扱方法、作業のしかた、まわりの状況など、十分注意して慎重に作業してください。

- 常識を働かせてください。

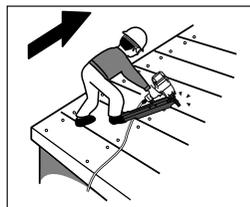
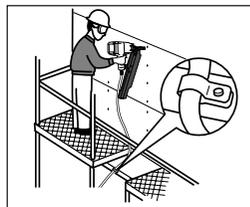
- 疲れているときは、使用しないでください。

⑯ エアホースをつかんで機体を移動しないでください。

⑫



⑭



⚠ 警 告

- ⑰ 誤って落としたり、ぶつけたときは、機体などに破損や亀裂、変形がないことをよく点検してください。

内部の圧縮空気で破裂の恐れがあり、けがの原因になります。

- ⑱ 使用中、機体の調子が悪かったり、異常を感じたときは、直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。

そのまま使用していると、けがの原因になります。

⑱



作業後

- ① 作業後は、エアホースをはずしてから、釘を全部抜き取ってください。

釘を残しておくと、次に使用するときによって誤って作動させた場合など、けがの原因になります。

- ② 釘打機やエアコンプレッサ、エアセットは直射日光に長時間当たたまま放置しないでください。

- ③ 釘打機は、注意深く手入れをしてください。

- 安全に能率よく作業していただくために、釘打機は常に手入れをし、清潔に保ってください。
- 付属品の交換は、取扱説明書に従ってください。

- ④ 使用しない場合は、きちんと保管してください。

- 乾燥した場所で、子供の手の届かない高い所または鍵のかかる所に保管してください。

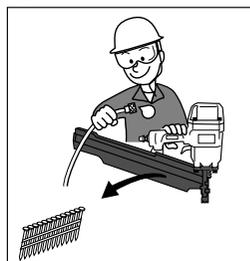
- ⑤ 部品をはずしたり、改造をしないでください。

安全性が損なわれ、けがの原因になります。

- ⑥ 釘打機の修理は、専門店で依頼してください。

- 修理は、必ずお買い求めの販売店または日立工機電動工具センターにお申し付けください。修理の知識や技術のない方が修理すると、十分な性能を発揮しないだけでなく、事故やけがの原因になります。

①



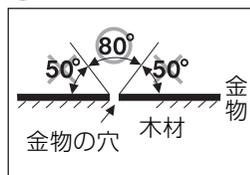
丸釘打機の使用上のご注意

先に釘打機として共通の注意事項を述べましたが、丸釘打機として、さらに次に述べる注意事項を守ってください。

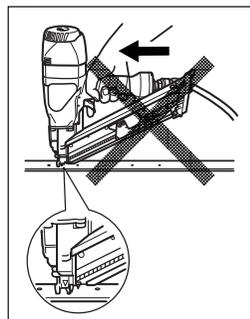
警告

- ① **コンクリートに直打ちしたり、直接板金などを取付ける作業はしないでください。**
コンクリート片がはねたり、釘が曲がってはね返る恐れがあり、けがの原因になります。
- ② **穴のあいた金物を木材に取付ける作業以外には使用しないでください。**
直接金物に釘が当たると、曲がってはね返る恐れがあり、けがの原因になります。
- ③ **ネイルフィーダを引いた状態でマガジンの開口部に指などを入れないでください。**
誤ってネイルフィーダが前進したとき、けがの原因になります。
- ④ **射出口付近に注意してください。**
釘の先端が射出口から突き出ているので、持ち運ぶするときなどに誤って顔や手、足などに触れると、けがの原因になります。
- ⑤ **釘を打つ前に、釘の先端が確実に金物の穴に入っていることを確認してください。**
釘の先端を確実に金物の穴に入れないと金物に当たり、釘がはね返ったりして、けがの原因になります。
- ⑥ **釘を打つ所に釘打機を垂直にして打ってください。**
斜めに打つと、釘が金物に入らず、曲がってはね返る恐れがあり、けがの原因になります。
- ⑦ **釘を打つときは、釘打機を前方に押し付けないでください。**
釘が斜めに打たれると、金物に入らず、曲がってはね返る恐れがあり、けがの原因になります。

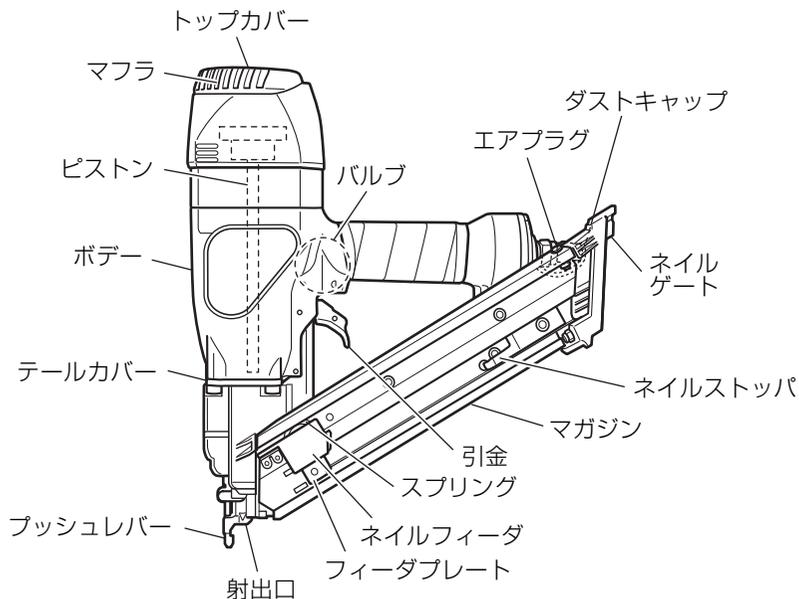
⑥



⑦



各部の名称



仕 様

動力形式	ピストン往復動式
使用空気圧力	0.49～0.78 MPa {5～8 kgf / cm ² }
能力(使用釘)	R 3340 TZ(焼入)(ZN 40相当) R 3365 TZ(焼入)(ZN 65相当)
釘の装てん数	22本(1連)
製品の大きさ	長さ 300 mm×高さ 336 mm×幅 88 mm
製品質量	2.6 kg
釘送り方式	うず巻ばね式
使用エアホース(内径)	7 mm以上

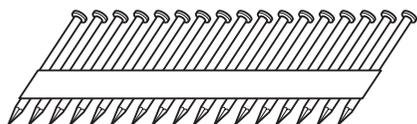
釘の選び方



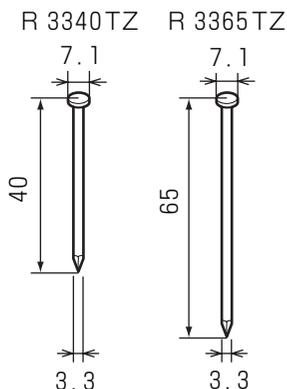
注 意

- 各金物の取付けは、規格で定められた釘を使用してください。

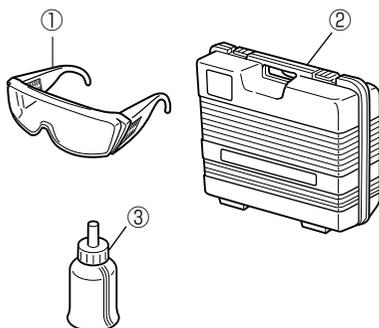
この機体は、規格で定められた釘のうち下図に示す釘を使用してください。
釘は 22 本が 1 連に連結されています。釘はこの釘打機をお買い上げの販売店でお求めください。



(寸法単位：mm)



標準付属品



- ① 保護メガネ 1 個
- ② ケース 1 個
- ③ 油さし 1 個
(釘打機・タッカ用オイル入り)

用 途

- 接合金物の釘止め作業

作業前の準備

○騒音防止規制について

騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。ご近所に迷惑をかけないよう、規制値以下でご使用になることが必要です。状況に応じ、しゃ音壁を設けて作業してください。

作業前に次の準備をすませてください。

1. エアホースの準備

この機体に使用できるエアホースの内径は7 mm以上です。エアホースをエアコンプレッサにしっかり接続してください。

注 ・エアホースの長さは、30 m以内のものをお使いください。エアホースが長いと圧力降下をして十分な打ち込み力が得られません。

2. エアコンプレッサ内のドレンを除去する

水や油が内部にたまりますと、さびの発生などで故障の原因になります。ご使用前には、エアコンプレッサの空気タンクのドレン抜きをゆらめて、内部にたまった水や油を除去してください。乾燥した清浄な圧縮空気を使用してください。（詳細はエアコンプレッサの取扱説明書をご参照ください。）

3. 釘の準備

用途にあった釘を準備してください。（10 ページ参照）

4. 安全点検

警 告

- 子供など作業員以外は近づけないでください。
- ねじ類がゆるんでいないことを、十分に点検してください。
- 損傷したり、はずれている部品や、さび付きなどで、正常に動作しない部品がないことを点検してください。

17 ページの「保守・点検」を参照し、必ず行なってください。

ご使用前に

警 告

- 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。

1. 空気圧力の確認

警 告

- この機体の使用空気圧力の範囲は $0.49 \sim 0.78 \text{ MPa}$ { $5 \sim 8 \text{ kgf/cm}^2$ } です。この範囲内で使用してください。

空気圧力は、釘打ち込み能力（釘の長さ、木材の堅さなど）に合わせて、 $0.49 \sim 0.78 \text{ MPa}$ { $5 \sim 8 \text{ kgf/cm}^2$ } の範囲で調整してお使いください。

空気圧力が 0.49 MPa { 5 kgf/cm^2 } 未満または 0.78 MPa { 8 kgf/cm^2 } を超えますと機体の性能、寿命、安全に影響しますので、エアコンプレッサの空気圧力、容量、配管に十分考慮が必要です。

2. 給油について

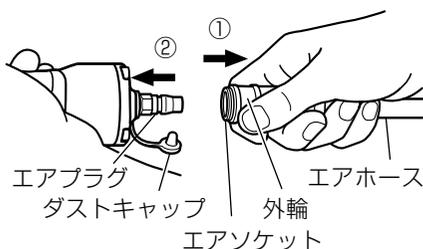
- 必ず1日に2回以上、給油してください。給油は、作業の前後に 2 mL { 2 cc } 程度の油をエアホース取付口から入れてください。作業前の油は潤滑油となり、作業後の油はさび止めとなります。
 - 注** •作業前の場合、給油直後空気を通すと、しばらくの間油が排気口より噴霧状に飛び散りますので、油がかかっても支障のない所で2～3本釘を打ってから作業してください。
 - 作業後の場合、給油後釘を1本打ちますと油が内部に行き渡ります。
- 油は付属の油をご使用ください。その他、使用できる油を20ページに示しますので、これらの油をお使いください。なお、混用は避けてください。

3. エアホースを接続する

⚠ 警告

機体にエアホースを接続するときは、次のことに注意してください。

- 引金に手を触れない。
- プッシュレバーの先を台や床などにのせて、押し上げた状態にしない。
- 射出口を人体に向けない。

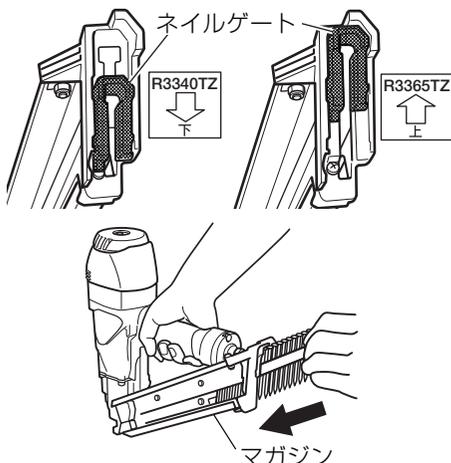


- 機体にエアホースを接続する場合はエアプラグからダストキャップをはずし、①エアソケットの外輪を引き、②エアソケットをエアプラグにしっかりとさし込んでエアホースを接続します。(手を離すと外輪は戻ります。)
- ごみやほこりが内部に入らないよう、エアホース接続の際には、口元のごみをふき取ってください。

4. 釘を入れる

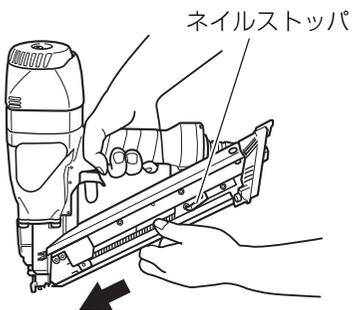
⚠ 警告

- 釘の長さを変えるときは、釘を全部抜き取ってください。
- 長さの違う釘を同時に装てんしないでください。
- 釘を装てんする場合は、必ず引金から指をはなし、エアホースをはずしてください。
- 釘を装てんした場合は、釘の先端が射出口から突き出ているので注意してください。

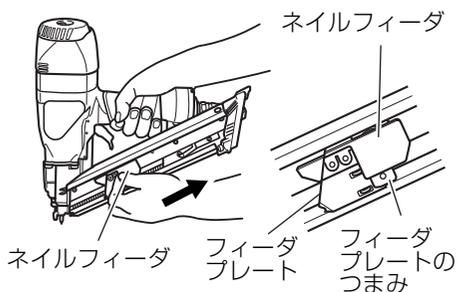


注 • 釘は5本以上連結されたものをご使用ください。

- 釘の長さにネイルゲートを合わせてください。R 3340TZ釘は下、R 3365TZ釘は上の位置に合わせます。
- 釘をマガジン後方から入れます。

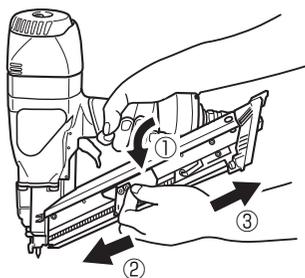


- 釘の連結後端がネイルストップパを越えるまで前方へ送ります。



- フィーダプレートをつまみを押して、ネイルフィーダをマガジン後方へ引いて、フィーダプレートが釘の連結後端を押すように静かに戻します。

注 ・ネイルフィーダを急に離すと、急激に戻り、釘が変形したり、ばらばらになったりして、釘づまりの原因になります。ネイルフィーダは必ず静かに戻してください。



- 釘をマガジンから抜き取る時は、①ネイルフィーダを少し引きながらフィーダプレートをつまみを押し、②ネイルフィーダを釘の前方まで移動します。③釘をマガジン後部から抜き取ります。

使 用 方

⚠ 警 告

- 作業中は、必ず保護メガネを使用してください。
- 作業中は、まわりの人の安全確保にも十分注意をはらってください。
- 人体に射出口を向けないでください。
- 射出口付近に顔や手、足などを近づけて作業しないでください。
- 一度打った釘の上に、再度釘を打つことはしないでください。

注 • 低温時に使用すると、機体の動作が悪くなることや釘を連結している連結バンドが切れることがあります。

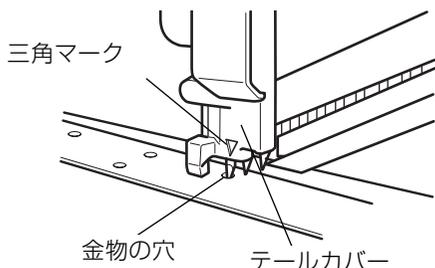
○ 安全装置について

この機体は、プッシュレバーと引金が同時に作動しないと、釘が発射されない構造になっています。したがって、引金を引いただけのとき、または、プッシュレバーを打ち込み対象物に押し当てただけでは、釘は発射しません。これは、誤って引金を引いたり、プッシュレバーを押し当てただけで、釘が発射されることを防ぐためです。

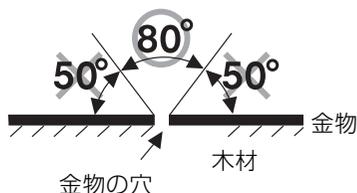
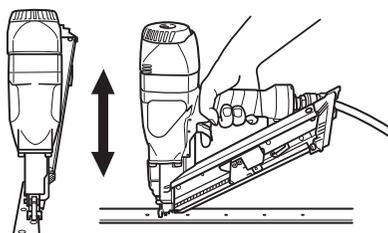
1. 釘の打ち方

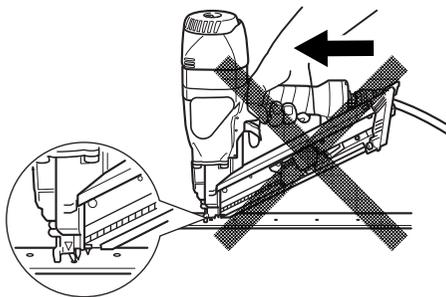
この機体は、接合金物を止める作業を目的とした製品です。金物の穴への打ち込みを確実にするため、プッシュレバーを打ち込み対象物に当ててから引金を引いたときのみ釘を発射する構造です。引金を先に引いてプッシュレバーを打ち込み対象物に当てても釘は発射しません。

(1) 打ち方



- 引金から指を離して、先頭の釘の先端を金物の穴に確実にさし込んで、テールカバーの三角マークと穴の位置を一致させてください。
- 釘を打つ所に釘打機を垂直にして打ってください。





○釘を打つときは、釘打機を前方に押し付けないでください。

(2) 作業中断時、使用後のご注意

⚠ 警告

- 使用しない場合や作業中断時、使用後はエアホースをはずしてください。
- 作業後は、エアホースをはずしてから、釘を全部抜き取ってください。

注 • 作業後は、エアコンプレッサの空気を抜いて、空気圧力を0にしてください。ドレン抜きをゆるめると、タンク内のドレンが除去されると同時に、圧縮空気が抜けて空気圧力が0になります。

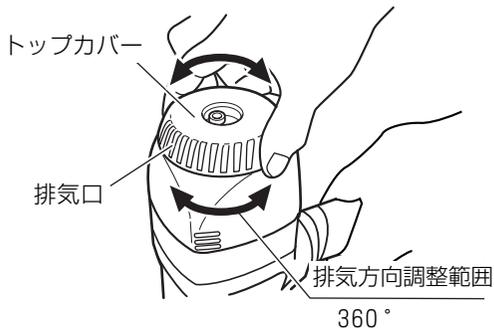
2. 空打ち防止機構について

この機体は釘がなくなったあとの空打ちを防ぐため、空打ち防止機構を備えており、釘が残り5本になると、プッシュレバーの連結がはずれ、引金を引いても打てなくなります。

3. 排気方向の変え方

⚠ 警告

- 排気方向の調整をするときは、必ず引金から指をはなし、エアホースをはずしてください。



排気口の向きは、トップカバーを回すことにより360°の範囲で変えることができます。

4. 釘の取扱い方

- 注**
- 釘の扱いをていねいに行なってください。落としますと、連結部が切れます。また、そのままの状態で使用すると、釘送り不良により、空打ち、釘づまりなどが発生するため、使用しないでください。
 - 釘は長時間外気や直射日光にさらさないでください。さびの発生や、連結部に不具合が生じる場合があるので、使用しないときは釘梱包箱などに入れてください。

保守・点検

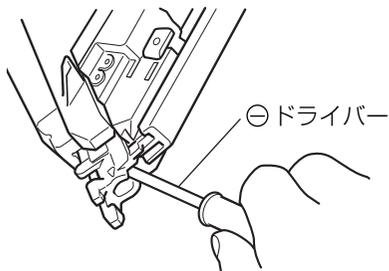
⚠ 警告

- 釘づまりを直すときや点検・手入れの際は、必ずエアホースをはずし、釘を全部抜き取ってください。

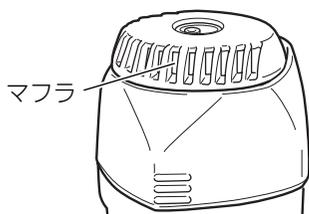
1. 釘づまりの直し方



- 釘をマガジン内より抜き取り、射出口から細い棒を入れてハンマでたたきます。
- 内部につまった釘を⊖ドライバーなどで取り除きます。
- 釘を連結している連結バンドの変形した部分をニッパなどで切断し、再び、釘をセットします。



2. マフラの点検



この機体は、排気時の騒音やホコリの巻き上げを少なくするため、排気部にマフラを内蔵しています。

マフラが目づまりや破損したときは、マフラを交換してください。

マフラ交換の際は、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに依頼してください。

3. 各部取付けねじの点検

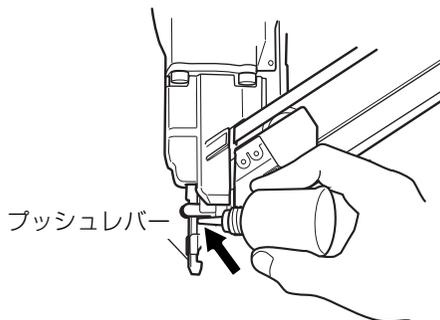
各部取付けねじでゆるんでいるところがないか、定期的に点検してください。ゆるんでいるところがある場合は、締め直してください。

ゆるんだままお使いになると、けがなど事故の原因になります。

4. ごみ・ほこりの防止

使用しないときはエアプラグにダストキャップをつけ、本体内にごみが入るのを防いでください。

5. プッシュレバーの点検

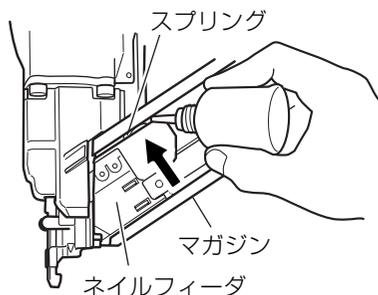


プッシュレバーがスムーズに摺動するか確認してください。

プッシュレバーの摺動部は掃除し、ときどき付属の油を注油してください。

油を注ぐことにより動作がスムーズになると同時にさび止めにもなります。

6. マガジンの点検



○マガジンをときどき掃除してください。

中にたまった釘連結バンドの破片、木くずなどを取り除いてください。

○ネイルフィーダのスプリングにはときどき注油してください。

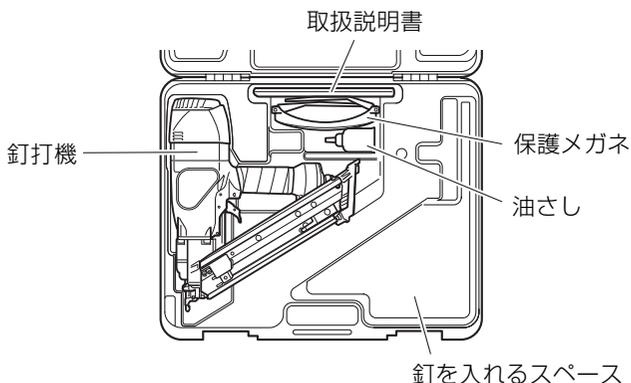
7. 作業後の保管は

⚠ 警 告

- 作業後は、釘を全部抜き取ってください。

注 • エアプラグにダストキャップをさし込むときは、機体をさかさにして十分水抜きしてからさし込んでください。

- 作業後、機体の内部にごみやほこりが入らないよう、ダストキャップをエアプラグにさし込み、ケースに入れて保管してください。ケースには下図のように入れてください。
- 長期間使用しない場合は、
 - さび防止のため、エアホース取付口から給油し、ネイルフィーダを後方に引いて2、3回空打ちして油を内部に行き渡らせてください。
 - 鉄の部分やバルブの部分には油をうすく塗布してください。
 - 油は、付属の油をご使用ください。その他、使用できる油を次ページに示しますので、これらの油をお使いください。なお、混用は避けてください。
- 気温が下がると、ゴム製部品の収縮で空気が漏れ、始動が悪くなる場合がありますので暖い場所に保管してください。
- お子様の手の届かない乾燥した場所に保管してください。



エアコンプレッサと作業の速さ

エアコンプレッサは、使用する作業の速さ（毎分合計打ち込み本数）と使用空気圧力（MPa）の関係により、下表を目安に最適な機種を選定してください。

作業の速さ（毎分合計打ち込み本数）

使用空気圧力 エアコンプレッサ または出力	0.49～0.59 MPa {5～6 kgf/cm ² }	0.59～0.69 MPa {6～7 kgf/cm ² }	0.69～0.78 MPa {7～8 kgf/cm ² }
EC 6 SA1 0.6 kW	65～50 本	50～40 本	40～30 本
0.75 kW	80～60 本	60～50 本	50～35 本
1.0 kW	90～70 本	70～55 本	55～40 本
1.1 kW	105～85 本	85～70 本	70～50 本

たとえば、0.54 MPa {5.5 kgf/cm²}の圧力で1分間に60本の速さで打ち込む場合（1秒間に1本）は、上の表から0.75 kWのエアコンプレッサが必要となることがわかります。

使用潤滑油

釘打機・タッカに使用する潤滑油は、日立釘打機・タッカ用オイルをおすすめします。この油も含め使用可能な潤滑油は下表のとおりです。

油の種類		銘柄および品名
日立釘打機・タッカ用オイル		——— [別途販売しております]
その他の オイル [市販品]	ベビコン油	日立ベビコン用オイル
	エンジンオイル	エンジンオイル各銘柄 SAE10W、SAE10W
	タービン油	タービン油各銘柄 ISO VG 32～68 (# 90～# 180)

注 ・潤滑油は必ず上表の油を使用してください。不適正な油を使用すると動作不良の原因になります。

ご修理のときは

この機体は、厳密な精度で製造されています。もし正常に作動しなくなった場合は、決してご自分で修理をなさらないでお買い求めの販売店または日立工機電動工具センターにご依頼ください。

ご不明のときは、裏表紙の営業拠点にご相談ください。

その他、部品ご入用の場合や取扱い上でお困りの点がありましたら、ご遠慮なくお問い合わせください。

※（外観などの一部を変更している場合があります。）

メ

モ

お客様メモ

お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号(No.)などを下欄にメモしておかれますと、修理を依頼される時便利です。

お買い上げ日	年	月	日	販売店
製造番号(No.)				電話番号

- 日立工機電動工具センターにご用命のときは、下記の営業拠点にお問い合わせください。

● 全国営業拠点

第一営業部	〒108-6020	東京都港区港南二丁目15番1号(品川インターシティA棟) ☎(03) 5783-0626(代)
北海道支店	〒060-0003	札幌市中央区北三条西四丁目(日生ビル) ☎(011) 271-4751(代)
東北支店	〒984-0002	仙台市若林区卸町東三丁目3番36号 ☎(022) 288-8676(代)
東京支店	〒108-6020	東京都港区港南二丁目15番1号(品川インターシティA棟) ☎(03) 5783-0629(代)
中部支店	〒460-0008	名古屋市中区栄三丁目7番13号(コスモ栄ビル) ☎(052) 262-3811(代)
北陸支店	〒920-0031	金沢市広岡二丁目13番37号(ST金沢ビル) ☎(076) 263-4311(代)
関西支店	〒530-0001	大阪市北区梅田二丁目6番20号(スノークリスタル) ☎(06) 4796-8451(代)
中国支店	〒730-0011	広島市中区基町11番13号(第一生命ビル) ☎(082) 228-0537(代)
四国支店	〒761-0113	高松市屋島西町字百石1981 ☎(087) 841-6191(代)
九州支店	〒813-0062	福岡市東区松島四丁目8番5号 ☎(092) 621-5772(代)

- 電動工具ご相談窓口 — お買物相談などお気軽にお電話ください。

お客様相談センター 0120-20 8822 (無料)

※携帯電話からはご利用になれません。(土・日・祝日を除く 午前9:00～午後5:00)

日立工機株式会社